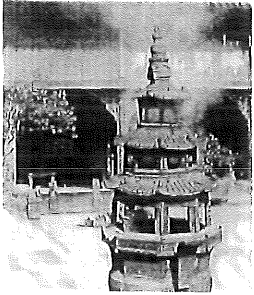
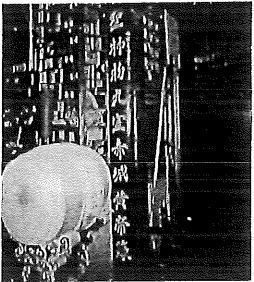


つ、闇をやぶり鐘は鳴る



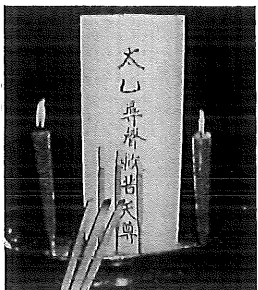
朝五時半、起床の鐘が鳴りひびく	一一二
暗闇のなかで練習する横笛の曲	一一八
常夜の灯明に油をさしてまわる	一二六
朝の勤行を知らせる太鼓と鐘と	一三三
黄帝殿での勤行はコーラスのよう	一四〇
木魚の告げる朝食の準備OK	一四七
朝の仕事は庭や階段をはくことから	一五四
香炉の灰をならし平らにする	一六一
道家の営業許可による写真館	一六八
線香と赤いローソクに火をとます	一七四

こ、紫煙のなかでの叩頭



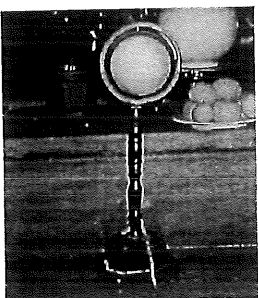
正山門あたりに人々のさざめき	一八二
前山門は車と人で大にぎわい	一八九
参道には物売りと滑竿と	一九六
幽境のなかの参道をいく	二〇五
三清殿は紫煙につつまれて	二一三
银杏閣と西客庁のかいわい	二二〇
遊客食堂と素齋堂のメニュー	二二七
木魚のまとも告げる昼食の合図	二三五
黄帝殿や三皇殿では歩みをとめて	二四三
天師殿では話もはずんで	二五〇

三、再び静寂のなかへ



- 茶室かいわいも静かになつて……………一六〇
- 夕方の掃きそうじ、勤行、夕食……………一六七
- バドミントンとテレビの時間……………一七五
- 江至霖老師とのインタビュ……………一八二
- 傳阿天大師とのインタビュ……………一八九
- 「道教は難しく、時間がかかる」……………二〇五
- 出家の動機はそれぞれにある……………二〇五
- 「幼友だちとは距離ができた」……………二二二
- 「事には敏く、言には慎む」……………二一九
- 再びすべては静寂のなかへ……………二二六

四、下元会に雪がふる



- 年に一回の下元会にめぐりあう……………二三六
- 朝の勤行はいつもより早く……………二四三
- 三清殿に臨時の祭壇をつくる……………二五〇
- 秘儀は炎と紫煙につつまれて……………二五七
- 灰色の空から雪がふってくる……………二六五
- 爆竹とともに法会がおわる……………二七二
- 昼食はこれまでになく盛大に……………二七八
- 濃霧のなかでの「施食」の儀式……………二八五
- 紙銭、紙の衣服とクツを持ちこざる……………二九二
- 朝晩の勤行『經典』をもちこる……………二九九